

## 当院における口腔咽頭梅毒症例の検討

荒 牧 元 余 田 敬 子

東京女子医大第二病院耳鼻咽喉科

宮 野 良 隆

みやの耳鼻咽喉科

### A Clinical Study of Oropharyngeal Syphilis

Hajime ARAMAKI, Keiko YODA

Department of Otolaryngology Tokyo Women's Medical University, Daini Hospital

Yoshitake MIYANO

Miyano ENT-Clinic

A retrospective analysis of 19 cases suffering from oropharyngeal syphilis, who were treated in Department of otolaryngology Tokyo Women's Medical University, Daini Hospital between 1983 and 1998, is presented. 10 of the patients were women and 9men, the mean age being 37.7 years. The most common manifestation was butterfly appearans in pharynx (47%), followed by mucous patches in oropharynx (32%) in secondary syphilis. Chancre on the lip as the manifestations of primary syphilis were found 2 cases (11%). Recently it is increasing HIV-positiv patients with syphilis.

#### 1 はじめに

1998年度国民衛生動向によれば梅毒の届け出症例数は厚生省が実施しているエイズキャンペーンにより、1987年2928例が1997年448例と1/5に激減した。しかし口腔咽頭梅毒例に関しては近年も初期顕症例が報告されている<sup>1)</sup>。我々は1983年より1998年の15年間に19例の口腔咽頭梅毒例を経験したので報告する。

#### 2 対 象

1983年～1998年12月までの間に東京女子医大付属第二病院耳鼻咽喉科外来を受診し口腔咽頭梅毒と診断された19例を対象とした。男性9例、女性10例、年齢18～56歳、平均37.7歳であった。

#### 3 結果 (Table 1)

(1)主訴は口腔咽頭痛11例(57%)が最多である。しかし疼痛は比較的軽度でヘルペスや扁桃周囲炎の様な嚥下痛はない。その他の主訴

Table 1 The cases of Oropharyngeal Syphilis (1983.1~1998.12)

症例 No	性	年齢	主訴	病変部位	所見	TPHA 値	感染経路	外性器の病変
1	F	16	口唇潰瘍	下口唇、手掌	硬性下疳	5120 倍	交際相手	?
2	M	43	咽頭痛	扁桃	乳白斑	20480	特殊浴場	軟性下疳の治療跡
3	F	56	咽頭異常感	扁桃	乳白斑	5120	交際相手	なし
4	M	39	咽頭痛	軟口蓋	B.A	5120	特殊浴場	なし
5	M	43	口腔内の痛み	舌、軟口蓋、口角、手掌	舌乳白斑、口角びらん	1280	特殊浴場	あり
6	M	34	舌の痛み	舌	乳白斑	2560	水商売女性	治療歴あり
7	F	41	咽頭異常感	下口唇、軟口蓋、手掌	B.A	20480	夫(夫は特殊浴場より)	なし
8	F	41	咽頭痛	軟口蓋	B.A	10240	夫以外の男性	なし
9	F	49	痰がからむ	軟口蓋	B.A	2560	ピンクサロン従事者	なし
10	F	45	咽のつかえ感	軟口蓋	B.A	5120	夫(夫は特殊浴場より)	なし
11	F	30	咽頭痛	口蓋弓	B.A	2560	夫(夫は特殊浴場より)	なし
12	F	27	咽頭痛	軟口蓋	B.A	5120	夫?(夫は刺青より?)	?
13	M	20	頸部リンパ節腫脹	軟口蓋	B.A	5120	不特定多数の女子高校生	なし
14	F	26	咽頭痛、頸部リンパ節腫脹	咽頭	白苔	2560	男性友人	なし
15	M	27	咽頭痛	軟口蓋	B.A	2560	不詳	なし
16	M	45	咽頭痛	扁桃	発赤、白苔	10240	特殊浴場	なし
17	F	55	咽頭痛	咽頭	B.A	10240	不詳	治療中
18	M	34	口角びらん	口角	口角びらん	20480、HIV(+)	複数同性パートナー	痔の治療
19	M	41	口唇腫瘍	口唇、手掌	初期硬結	5120	同性パートナー(症例 18)	治療歴あり

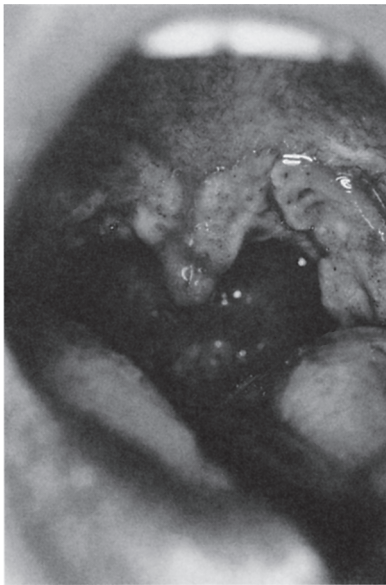


Fig.1 Butterfly appearance

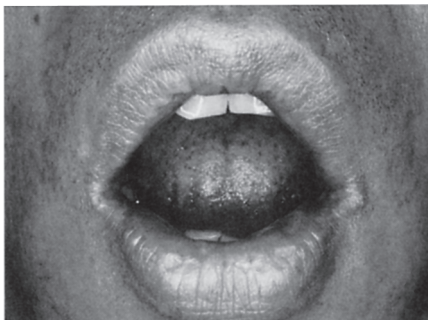


Fig.2 Mucous patches in the angle of mouth

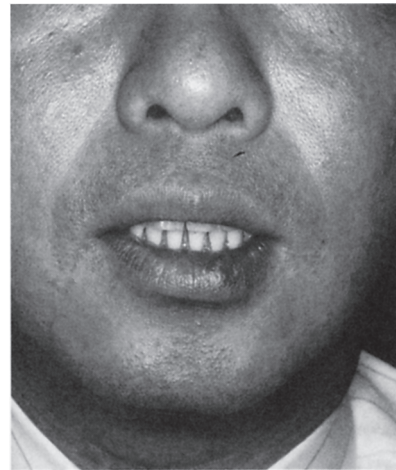


Fig.3 Chancre on the lowerlip

は咽頭異常感 4 例 (21%)、口唇口角のびらん、腫瘍 3 例 (16%)、頸部リンパ節腫脹 2 例 (11%) であった。

(2)病変部位は咽頭が 15 例 (79%) で最も多く、口唇口角 5 例 (26%)、舌 2 例 (11%) であった。

(3)臨床所見は咽頭の Butterfly appearance (Fig.1) 9 例 (47%)、舌咽頭乳白斑 6 例 (32%)、口唇初期硬結、硬性下疳 2 例 (11%)、口角びらん、白斑 (Fig.2) 2 例 (11%)、咽頭発赤 1 例 (5%) であった。口唇の 1 期所見である初期硬結 (Fig.3)、下疳以外は 2 期

Table 2 Classification of syphilis according to temporal course and type of lesion.

- トレポネーマ (*Treponema pallidum*) の感染後、時期により所見が異なり4期に分けられる。
- 第一期 (感染後3か月まで)
- ①初期硬結: 感染3週間後, 口唇, 舌尖や扁桃に無痛性の大豆大の結節 (初期硬結) を生じ, 後に潰瘍 (硬性下疳) となる。
- ②頸部の無痛性のリンパ節腫脹
- ③梅毒血清反応は感染直後は陰性で6~7週後陽性となる。したがって診断にはトレポネーマの検出が重要である。
- 第二期 (感染後3か月~3年)
- ①粘膜疹: 口腔・咽頭粘膜の乳白斑, 特に扁桃から口蓋にかけての butterfly appearance に注意を要する。皮膚にはバラ疹 (赤い斑点状の皮疹) を生じ, 陰部には扁平コンジローマを生じる。その他口角炎も生じる。
- ②診断は梅毒血清反応と臨床症状から行う。
- 第三期 (感染後3~10年)
- 口蓋に好発するゴム腫, 間質性舌炎などが生じ, 後に鞍鼻, 口蓋穿孔が生じる。
- 第四期 (感染後10~15年)
- 変性梅毒: 主に心血管系と中枢神経系の障害が生じる。麻痺性痴呆, 脊髄癆, 大動脈瘤が現れる。

所見が90%であった。晩期梅毒所見は認めなかった。

- (4)梅毒血清反応は脂質抗原による STS 法中2法 (ガラス板法, RPR 法) と TPHA 法をルーチンに行った。結果は全例, 強陽性であった。TPHA は1280~20480 倍を示した。
- (5)感染経路は性風俗女性からが7例 (37%), 夫4例 (21%), 交際相手4例 (21%), 男性同性パートナー2例 (11%), 不詳2例 (11%) であった。
- (6)外性器の病変は, なしが11例 (58%), あり及び既往6例 (32%) (1例肛門), 不明2例 (11%) であった。
- (7)HIV 感染: 梅毒症例に対するルーチンの HIV 検査は1993年より施行しているため, それ以前の15例は未施行であった。HIV 検査を施行した梅毒例4例中最近の1例が陽性であった。

#### 4 考 案

口腔咽頭梅毒は感染後の時期により Table2 の如く, 4期に分けられる。しかし現在は早期

頸梅毒と言われる。1, 2期のみが認められ3期4期の晩期梅毒を見ることはない。我々の症例もすべて早期梅毒であり, 特に2期例が17例 (89%) であった。口腔咽頭における1期所見は自他覚的に症状, 所見ともに軽度であることと自然消退があるため気付かずに見過ごされ2期に入り, 口腔咽頭の疼痛が加わることにより受診し, 発見されることが多い<sup>2)</sup>。臨床所見としては1期の初期硬結や硬性下疳は口唇に主に認められるが, 扁桃や舌の1期所見の変化は見逃されやすい。最も特徴的な所見は2期の咽頭所見 Butterfly phenomenon である。口蓋垂を中心に両側に翼をひろげる蝶の様な所見が見られる。咽頭腫瘍との鑑別が必要である。青年や中年の口角炎は AIDS によるカンジダ症との鑑別を要する。その他発症部位として外性器との関連であるが57%が口腔咽頭のみで病変が認められた。この事は現代の性風俗を反映し fellatio によるものと考えられる<sup>3)</sup>。AIDS 例との関係は小島<sup>4)</sup>によればわが国の AIDS 例は男性40%, 女性13%が梅毒陽性と述べている。我々の症例では最近の症例 (No18) が AIDS を併発しており, 口腔咽頭梅毒例にも AIDS 例が増加するものと思われる。

#### 5 ま と め

- 1) 当科における15年間の口腔咽頭梅毒頸症例19例について述べた。
- 2) 男女比各50%で平均年齢は37歳であった。
- 3) 臨床所見は軟口蓋の Butterfly appearance (2期所見) が50%に見られた。1期所見の口唇初期硬結, 硬性下疳は2例に認められた。
- 4) 1例に HIV 陽性例が認められた。
- 5) 口腔咽頭粘膜の病変を認めた際は STD も考慮する必要がある。

#### 6 参 考 文 献

- 1) 荒牧元, 宮野良隆: 鼻, 口腔・咽頭梅毒, Johns 9:929-934, 1993
- 2) 占部治邦: 梅毒, 臨床と研究 73:1494-1498, 1996

- 3) 荒牧 元, 余田敬子: 口腔, 咽頭と性感染症,  
耳喉頭頸 69:114-119, 1997
- 4) 小島弘敬: STD, 東京都医師会雑誌 51:81-82,  
1998

---

質 疑 応 答

質問 宮田 英雄 (岐阜大)

先生の施設は口腔咽頭梅毒例が多く受診するようであるが, 地域の特徴でもあるか.

応答 荒牧 元 (東京女子医大第二病院)

地域的な差はないと思います. ほとんどの例が紹介によるもので当科が口腔咽頭粘膜疾患を専門の一つにしていると考えられているからと思います. 口腔咽頭の STD, 結核, ヘルペス等に対する検査は重視しています.

連絡先: 荒牧 元

〒116-0011 荒川区西尾久 2-1-10

東京女子医科大学附属第二病院

耳鼻咽喉科学教室

TEL 03-3810-1111 FAX 03-3894-7988